

論壇

暴落の引き金は米国統計

米国に端を発した世界的な株価暴落に肝を冷やした人は多いだろう。この原稿が出る頃にどのような状況になっているのか予想は難しい。ただ、現在の経済状況について考える上で貴重な出来事であったことは確かだ。

そもそも、なぜこのようなことが起きたのだろうか。今回の一連の出来事の引き金を引いたのは、2月の最初に発表された米国の雇用統計であった。足元でどれだけ雇用が増えたのか、賃金がどれだけ上昇したのか。こうしたデータを提供するものだ。

伊藤 元重 学術院大教授(国際経済学)

景気回復基調にある米国の景気がどれだけ強いものであるのかを判断するのに、多くの専門家が最も重視しているのが雇用統計の動きだ。これで強い数字が出れば、

米国で本格的に景気回復が進んでいると自信を持つことができるからだ。特に賃金上昇のスピードに關心が集まった。議なことが起きている。この現象は次のように理解すればよい。先行きの景気が強ければ、経済に過熱の懸念が出てくる。物価上昇率が高くなりすぎるかもしれないし、金利が上昇していくこともあるだろう。過熱を嫌う中央銀行のFRBが金利を引き上げにくるかもしれない。金利が急速に

経済の安定に必要な株価修正

結果として出てきた数字は、米国の賃金が大きく上昇したことを示していた。多くの専門家がこの数字を見て米国の景気回復に確信を持った。問題はその後だ。この賃金の数字が、株価の暴落の引き金を引いたのだ。なぜ景気が回復したら株価が暴落するのか。不思議

結果として出てきた数字は、米国の賃金が大きく上昇したことを示していた。多くの専門家がこの数字を見て米国の景気回復に確信を持った。問題はその後だ。この賃金の数字が、株価の暴落の引き金を引いたのだ。なぜ景気が回復したら株価が暴落するのか。不思議

る。それを見てのうらばい売りもあつただろうから、株価はさらに下がることになる。こうした連鎖が続いた結果、歴史的にも稀な大ききの株価の下落となったのだ。

海外の金利上昇に注意を

ただ、こうした株価の下落の背景には、もう一つ大きな理由がある。それは歴史的に見ても非常に低い金利が主要国ですと続いていたことだ。この異常に低い金利が株や不動産の価格を必要以上に引き上げる結果となっていた。金利の上昇が始まれば、この構図が崩れることになる。多くの専門家が金利上昇を経済の大きなリスクと考えているのも、超低金利で株や不動産の価格が押し上げられて

景気が悪いのは困るが、景気が良すぎることに問題が大きい。特に日本のように長期間の経済低迷の後で、突然景気が速いスピードで回復すると、金利や株価などが過剰に反応することにもなる。そうした意味では、株価の下落がある程度の範囲に収まってくれば、高すぎた株価が修正されたことを考えることもできる。経済が長期的に安定を維持するためには、そうした株価の修正が必要だろう。日本経済が最終的にデフレから脱却するためには、こうした調整を伴いながら、物価や賃金と金利が上昇していく必要がある。日本での金利上昇にはまだ少し時間がかかるのかもしれないが、海外での金利上昇には注意を払う必要があるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。